

「高校生の健全育成を進めるための地域活動について」

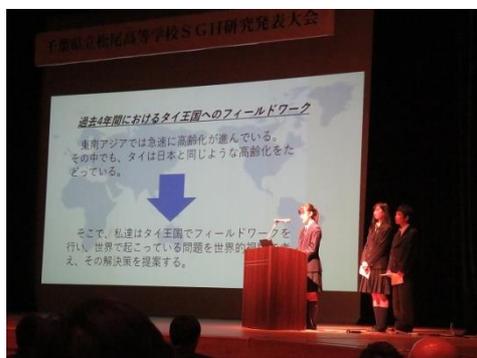
千葉県立松尾高等学校 P T A  
会長 小林 史枝

## 1 学校概要

本校は千葉県山武市にある普通科の高校です。「未来は人間の手の中に 自主・誠実・創造」を校訓としています。JR総武本線松尾駅から徒歩10分と比較的通学しやすい場所にあります。明治42年（1909年）に山武郡立松尾実業学校として設立されました。山武郡松尾町が平成18年に近隣の山武町、成東町、蓮沼村と合併して山武市になった年に松尾高校も男女共学になりましたが、そのほとんどは女子校としての歴史です。創立110年を過ぎていますので、令和元年度で卒業生は1万9千人を超えています。

1年生では全員同じ教育課程ですが、2年生からは一人一人の希望に応じた文系、理系、生活、ビジネス、福祉の5つのコースに分かれて勉強しています。現在は、1年生3クラス、2・3年生はそれぞれ4クラスで計11クラスの比較的小規模な学校です。真面目で大人しい生徒が多く、学校の雰囲気も落ち着いていて、子供達も毎日楽しく通学しています。

平成27年度～31年度は、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）の研究指定を受け、「地域から考えるグローバルエイジング（地球規模での高齢化）」をテーマに研究を行ってきました。その間、さまざまな企業や団体、関係機関の協力を得て研究を進め、海外での研修や大学、企業、各種大会等での発表などを通じて子供たちは、自ら学ぶ楽しさを実感できたようです。令和元年度には5年間の総まとめとしてのSGH研究発表大会を東金文化会館で行いました。その際には保護者も発表会に参加させていただき、子供たちの成長ぶりを見ることができました。



(SGH研究発表大会1)



(SGH研究発表大会2)

令和2年度からは「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」のグローバル型アソシエイト校として文部科学省から指定を受け、新しい目標を持って、魅力ある学校づくりを目指しています。

## 2 本校のPTA組織および活動

本校のPTA組織は、会長1名、副会長1名、監査、会計、書記および専門委員から構成されています。

専門委員会は厚生、生徒指導、広報、研修の4つの委員会があり、それぞれ20名ほどの委員が所属します。

本校のPTA役員の選出は、出身中学校ごとに行われるため、1年ごとに交代される方もいれば、3年間継続してやっていただける方もいます。協力的な方が多く、文化祭でPTAがバザーをやる時などは駐車場がいっぱいになるほど集まっています。

主なPTA活動は、5月のPTA・後援会合同総会の後、各学期末に広報誌の発行、文化祭でのバザー出店、視察研修、先生方との合同の列車指導など、委員会ごとの各種事業があります。また、年に2回の山武市主催の生徒向け英語合宿事業への協力があります。本校では、PTAの活動の多くに後援会の方も参加してくださいます。後援会は主にPTA役員経験者の有志の方が、お子様の卒業後も本校の支援のために活動してくださる組織です。松尾高校やPTAの活動に様々な面でご協力をいただいています。

## 3 地域との連携を伴う活動について

本年度は、新型コロナウイルスの影響により、ほとんど活動ができていませんので昨年度取り組んだ主な活動を紹介します。

### (1) 文化祭でのバザー出店

松尾高校では文化祭（桔梗祭と称します）の時には保護者からバザーの品物を提供していただき、前日から準備をして販売します。その際にはPTA役員だけでなく、後援会の皆さんもPTAと一緒に準備から販売まで手伝ってくださいます。また、同窓会の皆さんのバザーもあり、松尾高校の文化祭を盛り上げるために多くの方が協力してくれます。文化祭は地域の方はだれでも校内に入ることができますので、日に何度もバザーに足を運んで商品を買っていただける方もいます。毎年大盛況で、売上金は全額生徒会に寄付をします。



(PTAバザー1)



(PTAバザー2)

### (2) インターンシップ

松尾高校では総合的な探求（学習）の時間の授業の一環として、当該学年の生徒全員が地元の農家や事業所に数日間インターンシップをさせていただいています。受け入れ先の皆様も松尾高校の生徒ということで快く受け入れてくださり、大変ありがたいことだと思います。受け入れ先についても保護者を含めた松尾高校の関係者の方のところも多く、安心して子供たちを預けることができます。



(インターンシップ 1)



(インターンシップ 2)

### (3) スタディランチ・スタディクリスマス

本校が文部科学省からSGHの指定を受けたのと同時に、本校生徒の英語力の向上のために山武市から支援をいただけることになりました。年に2回、夏と冬にそれぞれ2日間の英語合宿、スタディランチとスタディクリスマスです。

この英語合宿は、山武市の主催で、市から指定されたコーディネーターの方と松尾高校の英語科の先生方が協力して計画を練り、8人～10人ほどの



(演劇 1)



(演劇 2)



(フリートーキング 1)

外国人の講師を招いて行われます。生徒は少人数のグループに分かれて、グループごとに外国人講師のリードのもとにゲームをしたり、演劇をしたりと、1日中、英語だけで過ごします。午前と午後にそれぞれ外国人講師を囲んでお茶の時間があります。外国人講師の方が順番に生徒たちのグループを順番に回って英語でおしゃべりをするフリートーキングの時間です。参加した生徒たちも日本語をほとんど使わずに過ごす時間は新鮮ではなかったかと思えます。

この時は、山武市と松尾高校の職員、PTA・後援会が協力して手作りの昼食を用意しています。外国人講師の方の中にはシェフをやっている方もいるので、その方のリードでスペイン料理やイタリア料理を作ったり、また、山武市の職員にスリランカ出身の方もいるので、その方のリードのもと、スリランカ料理を作ったりと毎回変化に富んでいます。子供たちも昼食をととても楽しみしていて、多めに作るのですがほとんど残りません。作る私たちも毎回どんな料理ができるのかとても楽しみでした。子供たちにとっては食を通して異文化を体感できる良い機会だったと思います。



(昼食づくり1)



(スリランカ料理1)



(スペイン料理1)

#### 4 まとめ

少子高齢化にともなう人口減少、ICT技術の進展、AIが社会のあらゆるところに浸透していくことによる社会全体の急激な変化、さらに今回の新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による経済、社会への影響など、これからの時代は子供たちにとって大変厳しい時代になると思います。子供たちにはそんな時代を生き抜く力を是非、身につけてもらいたいと思います。

学校の抱える課題も複雑になり、学校の先生方と保護者だけで対応できるものではありません。やはり、それぞれの地域の特色を生かした学校、保護者、地域のつながりを通じて学校の抱える課題を解決していかなければならない時代だと思えます。

今年度から本校の募集定員は120人(1学年3クラス)となってしまいました。少子高齢化は日本全体の問題ですが、この地域でも子供の数の減少は急速です。松尾高校までの通学路もかつての賑わいはありません。松尾高校の最寄り駅であるJR松尾駅周辺の皆様をはじめ、地域住民の多くの方が、地域の活性化と松尾高校の存続は、切っても切れないものであるという強い思いがあると聞いております。文部科学省からSGHの指定を受ける際には、伝統のある松尾高校をなんとか残したいという地域の皆様の熱い応援もありました。

スタディランチとスタディクリスマスは、今年からは主催が松尾高校になります。引き続き山武市からは支援していただけるとのことです。地域社会のつながりが希薄になっているといわれていますが、松尾高校にさまざまな意味での人的なネットワークが残っているのはとても素晴らしいことだと感じています。

学校、家庭、地域それぞれが抱える問題は、別々なものではなく、一本のチェーンのようにつながっているとされます。どれか一つの問題だけを解決しようと思ってもなかなか難しいことも多いと思います。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本校では、ほとんどのPTAの行事が中止になってしまいましたが、あらためて人と人とのつながりの大切さを実感しています。PTAの役員は長くても3年間ですが、この間に培った人間関係を活かして、地域に住む一人として、これからも学校が抱える課題の解決に尽力できばと思っています。